

日韓少女まんがにおける擬態語の対照研究

李, 大年
九州大学大学院比較社会文化学府

<https://doi.org/10.15017/4494686>

出版情報：比較社会文化研究. 24, pp.81-89, 2008-09-30. 九州大学大学院比較社会文化研究科
バージョン：
権利関係：

日韓少女まんがにおける擬態語の対照研究

李 大年

1. 問題と目的

日本語には、擬音語よりも擬態語の方が多い。日本語母語話者が日常生活の中で何気なく使用し、理解している擬態語は日本語学習者にとって理解しにくいだけでなく習得するということになればかなりの時間と労力を要することになる。では、どうして日本語学習者にとって日本語の擬態語の学習はむずかしいのであろうか。

越智・川崎・矢野・林 (1997: 3211) は、日本語の擬態語・擬音語の特徴と習得を以下のようにまとめている。

- ①意味理解：擬態語・擬音語は感覚的な表現なので言葉の説明では理解しにくい。また、外国人には該当する適切な母国語が存在しない場合が多い。
- ②類義語：状況や程度の微妙な違いで複数の語を使い分けなければならない。
例「雨が“ぱらぱら”降る」、「雨が“しとしと”降る」、「雨が“ぎーぎー”降る」
- ③同音類義語：同じ発音の語でも意味合いが異なる場合がある。
例「“はらはら”と木の葉が散る」、「“はらはら”しながら見る」
- ④類音語：類似した発音の語でも意味合いが異なる場合がある。
例「“とんとん”と扉を叩く」、「“どんどん”と扉を叩く」
- ⑤品詞：擬態語・擬音語は複数の品詞をとるものと品詞が固定されるものがある。
例「“うじうじ”と悩む (副詞)」、「“うじうじ”する (サ変動詞)」、「“いちいち”うるさい (副詞のみ)」
- ⑥語源：擬態語・擬音語には語源が同じ、あるいは何らかの因果関係がある語が存在する。¹ 例「うきうき⇄浮く」
- ⑦派生：語の要素に「つく」や「めく」などの接辞が付き動詞として派生する語が存在する。²
例「ざわざわ⇒ざわつく、ざわめく」
- ⑧感覚：(省略) 一般に聴覚にかかわる語が擬音語であり、それ以外は擬態語である。しかし、感覚が明確に区別できず複数の感覚に関連する場合も存在する。
例「ころころ…転がる様子〈視覚〉、音〈聴覚〉」

日常生活で、擬態語の使用量の多さや効果を考えると、擬態語は日本語を正しく理解する上で必要である。では、学習者に理解が困難である擬態語は日本語教育においてどのように位置づけられているのか。

『日本語教育ハンドブック』(1990: 353) には語彙の分野で教えるべき最小限の十一事項のうち、7番目に擬音語・擬態語が挙げられている。

『日本語教育ハンドブック』(1990: 343) によれば、日本語の語彙を教育するにあたって重要だと考えられる事項の中で、日本語は習得すべき擬音語・擬態語に富んでおり、とくに後者が多いことが挙げられている。つまり、日常会話によく使われている擬態語は日本語教育の語彙教育においても、重要な事項として位置づけられている。また、『日本語教育ハンドブック』(1990: 367) には、指導上の留意点として「擬態語の場合、もともと音のないところを象徴的に表したものだから、擬声語以上に音の感じをつかませることが困難で、工夫のしがいのあるところである」と述べている。

このように日本語教育において擬態語は重要な事項として位置づけられており、教授の問題点についても指摘されている。

近年、日本のマンガが世界的な人気を集めるにつれ、マンガを通じて初めて日本語の擬音語、擬態語を知る人も多いだろう。³ そして日本のマンガを日本語の教材として利用し、会話の授業や擬音語、擬態語の授業を行うこともしばしばある。

マンガには擬音語、擬態語が非常に多い。スコウラップ (1993) の調査結果によれば、マンガにおける独立部分の擬音語、擬態語は小説の十倍にも及ぶ頻度で現れているとされる。つまりマンガは擬音語、擬態語の華やかな「舞台」であると言っても過言はない。

マンガは、擬音語、擬態語がなければ成り立たないと言える擬音語、擬態語が多く使用される。公式の文章では忌避され、冷遇視されてきたオノマトペはマンガという舞台で脚光を浴び、堂々と大手を振って、自分の存在を誇示することができる。

柏木 (1993: 80) によれば、「マンガという表現形式がオノマトペを多用し、また時と

して、オノマトベだけで一つのシークエンスを構成してしまうのは、擬音語、擬態語のシニフィアンとシニフィエとの自然にみえる関係性が誰にも理解可能であるという点において、大衆的表現にむいているからである。」と述べている。

擬音語、擬態語はマンガに身を預けることを通じて大きく成長し、語彙の範疇を次々と増やしてきた。それと同時に、マンガの表現力をより発展させた。

マンガにおいて擬音語、擬態語は絵と共に存在しているので、簡単な説明さえ加えればその意味が分かり、楽々と覚えらるる不思議な力を持っている。また、マンガの擬音語、擬態語をみると、場面が設定され、どういう場合にどう使われているか理解できる。特に擬態語の場合、動作だけではなく、心理を描写するものが多いので、マンガの絵と場面、会話などの補助説明で意味が分かる。陣住佳た(2004: 51)によると、少女まんがには擬態語がよく使われていると指摘している。(図1を参照)

本論文では、少女まんがにおける擬態語を中心に研究を行い、擬態語の形態的特徴、意味的特徴を明らかにする。また、他の言語との対照という観点から、日韓少女まんがにおける擬態語の対照研究を通して、その相違点、類似点をまとめ、日本語の擬態語の特徴をより明確にする。

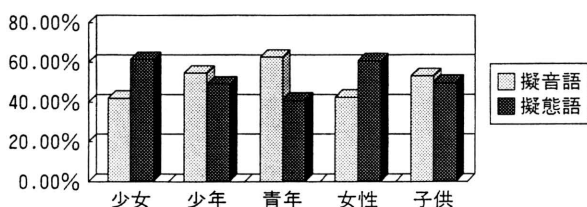


図1：読書層からみる擬音語・擬態語の使用率

2. 調査対象と調査方法

2.1 調査対象

本研究では少女まんがにおける擬態語を調査対象とする。筆者の知る限り、「少女まんが」を母集団とし、「擬態語」のみを取り上げて調査対象とした研究はない。そのため、日本マンガにおける擬音語、擬態語の論文7本を選び、その研究方法を取り上げた。7本の論文のうち、一つのジャンルのみ取り上げた論文は、大村(1955)と許仁順(1989)で、子供向けマンガを調査対象としている。そしてマンガをジャンル別に分け、数量的調査を行った論文は寿岳(1965)、日向(1986)、陳佳雯(2004)である。岡本(1991)は日仏マンガにおける擬音語、擬態語の対照研究で、越前谷(1989)はマンガ作家三人の作品を取り上げた研究である。

以上述べた7本の論文を母集団、部数、刊行時期などを中心にまとめると以下ようになる。

①数

越前谷(1989)はマンガ3冊、鶴岡(1989)は週刊漫画タイムス1冊、日向(1986)はマンガ3冊を用いてオノマトベの研究を行っている。

②刊行時期

岡本(1991)は日仏マンガの対照研究である。日本マンガの場合は1985年から1991年に刊行されたマンガを選んでいるのに対し、フランスマンガの場合は1948年から1989年までに刊行されたマンガを選んでいる。つまり、時代の違いによって使われているオノマトベも異なる可能性があり、刊行時期が41年も離れると、オノマトベの使用上の差異があると考えられる。

③単行本・雑誌

先行研究の標本をみると、マンガの単行本、マンガ雑誌など2つに分けることができる。

マンガのオノマトベの研究を行う際、単行本を選ぶかマンガ雑誌を選ぶかは重要なことである。それはマンガの単行本と雑誌にはそれぞれの長所と短所があるからである。名作、または作者によるマンガの事例研究には単行本の方が相応しいが、作者、発行時期によるオノマトベの使用傾向に左右される。マンガ雑誌の場合、ジャンルの選択に悩む必要もなく、異なったタイプのマンガ、または新作と名作の集合体なので、作者、刊行時期によるオノマトベの使用傾向による偏りを避けることができる。そのため、オノマトベの数量的調査に適切な調査対象とも言えるが、出版社の好みに左右される恐れもある。

④名作・発行部数ランキング上位

日向(1986)は、青年向けマンガ、レディースコミック、子供向けのマンガ各1冊を取り上げ、これら3冊は多様化しているマンガの世界の大きな分野の中でそれぞれに代表するものであると述べている。陳佳雯(2004)は、マンガ雑誌発行部数ランキング上位三位に入る雑誌を取り上げている。

本研究では、マンガの刊行時期の年代差を避けるため、2000年から2005年の間に刊行された日韓少女まんがの中で日韓各30冊を選び、さらに作者による擬態語の個人差を避けるため、同じ作者の作品は一回以上使わないこと、連載のものは1冊のみ選ぶことにした。

本研究では先行研究における調査対象と方法の問題点を

踏まえていろいろ工夫したが、全ての問題を克服したとは言えないことをあらかじめ断っておきたい。

2.2 擬態語の選定

浅野・金田一編『擬音語・擬態語辞典』(1985:4)をみると日本語の擬音語・擬態語は以下のように定義されている。

- ・擬音語：外界の音を写した言語。
擬音語：無生物の音を表すもの。
擬声語：生物の音を表すもの。
- ・擬態語：音を立てないものを、音によって象徴的に表す言語。
擬態語：無生物の状態を表すもの。
擬容語：生物の状態(動作容態)を表すもの。
擬情語：人間の心の状態を表すようなもの。

浅野・金田一(1985)は、外界の音を写した言語を擬音語とし、音を立てないものを、音によって象徴的に表す言語を擬態語としている。

鈴木(1976)は、擬音語・擬態語を聴覚、視覚、触覚、味覚、臭覚、気分・心理状態など感覚によって分類している。⁴聴覚にかかわる語が擬音語であり、それ以外は擬態語である。

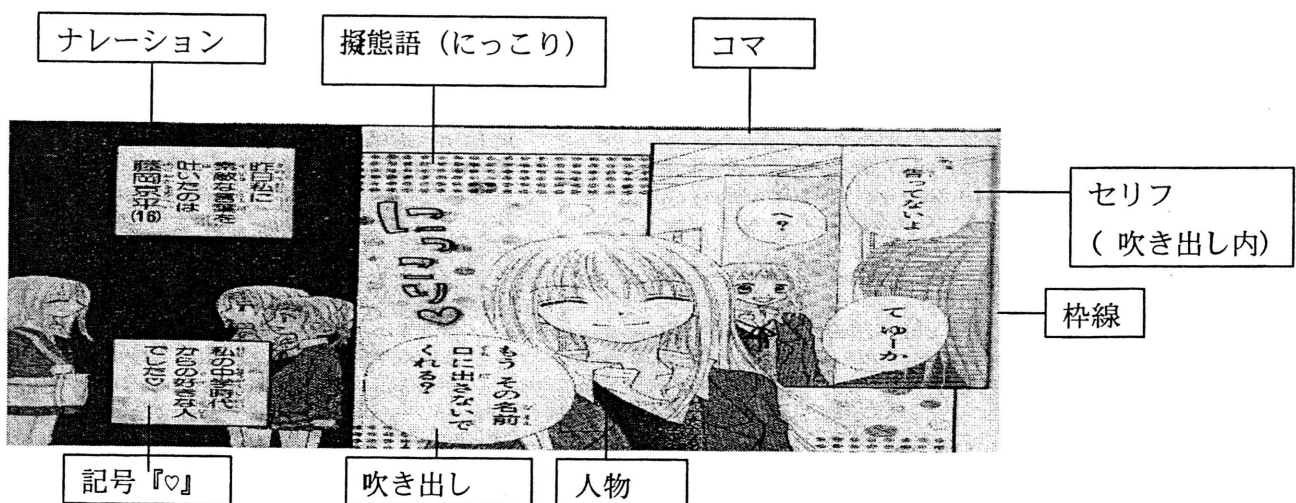
남풍현(Nampunghyeon)⁵(1993:93)で、韓国語の擬音語・擬態語を以下のように定義している。

- ・의성어(擬声語): 사물의 소리를 모방한 단어. (事物の音を模倣する語。〈筆者直訳〉)
- ・의태어(擬態語): 사물의 상태나 모양을 모방한 단어. 인간의 오관 가운데 청각을 제외한 시각, 미각, 후각, 촉각에 의하여 모방된 단어들을 모두 가르킨다. (事物の状態や模様を模倣する語。人間の五感の中で聴覚を除いた視覚、触覚、味覚によって模倣する語を指す。〈筆者直訳〉)
- ・의정어(擬情語): 인간의 심리내용을 모방한 단어. (人間の心理内容を模倣する語。〈筆者直訳〉)

남풍현(1993)は、事物の状態や模様を模倣する語を擬態語とし、人間の五感の中で聴覚を除いた視覚、触覚、味覚によって模倣する語を指すと具体的に分けている。そして、人間の心理内容を模倣する語を擬情語としている。

本論文では、以上のような擬態語の定義に従い、少女まんがにおける擬態語の特徴に合わせて以下のように定義する。(絵1を参照)

本論文における擬態語とは、少女まんがにおいて独立し、文法制約もなく、統語機能も果たさないオノマトペの場合、音のしないものを、言語音によって描き出す語を擬態語とする。また、吹き出しの中に含まれず絵の近くで描写されているものも擬態語として認める。



絵1 本論文における擬態語

(筆者作成)⁶

2.3 調査方法

本論文では、少女まんがの擬態語の特徴を把握するため、日韓少女まんがにおける擬態語の分布、形態的特徴、意味的特徴など三つの調査項目を取り上げた。

①日韓少女まんがにおいて擬態語の配置の違いによる特徴を調査分析する。少女まんがに使われている擬態語の特徴を把握するため、独立している擬態語だけではなく、ナレーションの中で、文法制約があり、統語機能を果たしている擬態語も調査の枠組みに入れる。

表1 日韓少女まんがにおける配置の違いによる擬態語

| | |
|---|---|
| 1 | ナレーションの中で、文法制約があり、統語機能を果たしている擬態語。 |
| 2 | 独立している擬態語。 |
| 3 | 吹き出しのセリフの中で、文法制約があり、統語機能を果たしている擬態語。 |
| 4 | 吹き出しの中、セリフとは別々に書かれ、文法制約がなく、統語機能も果たさない独立している擬態語。 |
| 5 | 吹き出しに括られたセリフを伴わない擬態語。 |
| 6 | 吹き出しの縁に置かれ、吹き出しを跨る擬態語。 |

(筆者作成)

②日韓少女まんがの擬態語の長さの特徴、使用語形などの相違点・類似点を把握する。日韓少女まんがにおける擬態語の語末の特徴を明らかにするため、収集した擬態語を語末が「ッ」、「ン」、「リ」、「ー」で終わる擬態語に分けてその使用率を算定する。韓国少女まんがの場合は韓国語の擬態語においての語末の特徴に従い、語末が「/K/」、「/N/」、「/R/」、「/M/」、「/P/」、「/S/」、「/NG/」、「/V/」で終わるものに分けてその使用率を算定する。

③日韓少女まんがにおいて意味特徴による擬態語の相違点・類似点を調査分析し、日韓少女まんがにおける擬態語の使用傾向を把握する。その際、収集した擬態語を以下のように意味によって大きく四つに分類する。⁷

動きを表す擬態語

歩く、転ぶ、滑る、回る、ふるえる、食べる・飲む、見る、騒ぐ、言う・話す

感情・表情を表す擬態語

泣く、笑う、怒る、驚く

形状・状態を表す擬態語

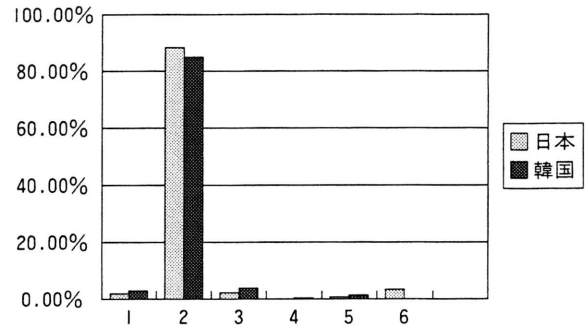
膨らむ、光る、浮く

程度

勢い、速度、度量

3. 結果

3.1 日韓少女まんがにおける擬態語の分布



- 1 ナレーションの中で、文法制約があり、統語機能を果たしている擬態語。
- 2 独立している擬態語。
- 3 吹き出しのセリフの中で、文法制約があり、統語機能を果たしている擬態語。
- 4 吹き出しの中、セリフとは別々に書かれ、文法制約がなく、統語機能も果たさない独立している擬態語。
- 5 吹き出しに括られたセリフではない擬態語。
- 6 吹き出しの縁に置かれ、吹き出しを跨る擬態語。

図2：日韓少女まんがにおける配置の違いにおける擬態語1～6の使用率

図2は、日韓少女まんがにおける位置の違いによる擬態語1～7の使用率を表している。その類似点、相違点をまとめると以下ようになる。

- ①韓国の少女まんがの場合、ナレーションや吹き出しのセリフの中で、文法制約があり、統語機能を果たしている擬態語がよく使われている。それに対して、日本の少女まんがには使われていない。
- ②日本の少女まんがの場合、吹き出しの縁に置かれ、吹き出し線を跨ぐ擬態語が見られるのに対し、韓国の少女まんがの場合ほとんど見つけられない。
- ③日本の少女まんがの場合、2の使用率は全体の9割を占めており、韓国の少女まんがの場合全体の8割を占めている。つまり、日韓少女まんがにおいて独立して、文法制約がなく、統語機能も果たさない擬態語が一番よく使われている。

3.2 形態的特徴

3.2.1 長さ

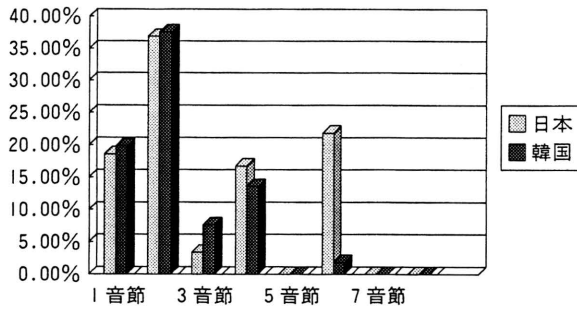


図3：日韓少女まんがにおける1～8音節の擬態語の使用率

3.2.2 語型

表2 日韓少女まんがによく使われている擬態語の語型の順位

| 順位 | 日本語型 | 例 | 使用率 | 韓国語型 | 例 | 使用率 |
|----|------|------|-------|---------------|----------------------|-------|
| 1 | ABAB | がらがら | 16.0% | A(-/K/) | 꽉(KKwak) | 14.4% |
| 2 | ABッ | さらっ | 15.6% | ABAB | 굽실굽실 ◎(Gupsilgupsil) | 13.7% |
| 3 | AB | びた | 12.5% | AB(-/V/-(/K/) | 와락 (Walak) | 10.4% |
| 4 | Aッ | かっ | 12.2% | AB(-/R/-/K/) | 벌컹(beolkeok) | 5.57% |
| 5 | ABン | だらん | 5.1% | ABC | 맹그랑(Ttaengeulang) | 4.11% |

(筆者作成)

表2は、日韓少女まんがによく使われている擬態語の語型の順位を表しており、まとめると以下ようになる。

日本の少女まんがによく使われている擬態語の語型を使用率の高いものから低いものの順に並べると、「ABAB」、「ABッ」、「AB」、「Aッ」、「ABン」の順になる。韓国の少女まんがの場合は、「A(-/K/)꽉(KKwak)」、「ABAB 굽실굽실(Gupsilgupsil)」、「AB(-/V/-(/K/)와락 (Walak)」、「AB(-/R/-/K/)벌컹(beolkeok)」、「ABC 맹그랑(Ttaengeulang)」の順になる。日本の少女まんがの場合、「がらがら」のような4音節の擬態語が一番よく使われているに対し、韓国の場合は「A(-/K/)꽉(KKwak)」のような語末が「/K/」に終わる1音節の擬態語が一番よく使われている。

3.2.3 語末

マンガには基本語形に属さない擬態語、あるいは辞書にも掲載されてない擬態語がよく使われている。ここでは、山口(2002)のオノマトペの語型に基づき、日本の少女まんがにおける擬態語の「ッ」「ン」「リ」「ー」の付加ルール

類似点

①日韓少女まんがにおける1音節、2音節の擬態語の使用率はほぼ同じである。また日韓少女まんがにおいては2音節の擬態語が一番よく使われている。

②日韓少女まんがにおける5音節、7音節、8音節の擬態語の使用率は極めて低い。

相違点

①日本の少女まんがの場合、4音節、6音節の擬態語の使用率は韓国の少女まんがより高い。特に6音節の擬態語の使用率の差が大きい。

②韓国の少女まんがの場合、3音節の擬態語の使用率は日本の少女まんがより高い。

を調査分析する。

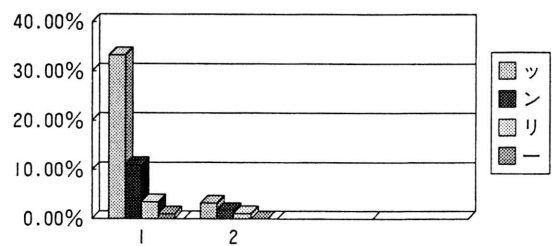


図4：日本の少女まんがの擬態語の「ッ」「ン」「リ」「ー」の使用率

①日本の少女まんがの場合

日本の少女まんがの擬態語を基本語型に属するもの(図4の1を指す)と基本語型に属さないもの(図4の2を指す)に分けてその使用率を算定すると以下ようになる。viii

1の場合、使用率の高いものから低いものの順に並べると、「ッ」、「ン」、「リ」、「ー」の順になる。2の場合、使用率の高いものから低いものの順に並べると、「ッ」、「ン」、

「リ」、「一」の順になる。つまり、日本の少女まんがの場合、1と2の使用率の順位は同じである。

日本の少女まんがの場合、基本語型に属さない擬態語は派生する際、基本語型の「ッ」、「ン」、「リ」、「一」の付加ルールに従う。

② 韓国の少女まんがの場合

韓国の少女まんがの擬態語を基本語型に属するもの(図5の1を指す)と基本語型に属さないもの(図5の2を指す)に分けてその使用率を算定すると以下ようになる。

1の場合、使用率の高いものから低いものの順番に並べると、「/K/」、「/NG/」、「/S/」、「/N/」、「/R/」、「/M/」、「/V/」、「/P/」の順になる。

2の場合、「/V/」、「/N/」、「/K/」、「/NG/」、「/R/」、「/S/」、「/P/」、「/M/」の順になる。

つまり、韓国の少女まんがの場合には1と2の順位が異なる。(図5参照)

る。(図5参照)

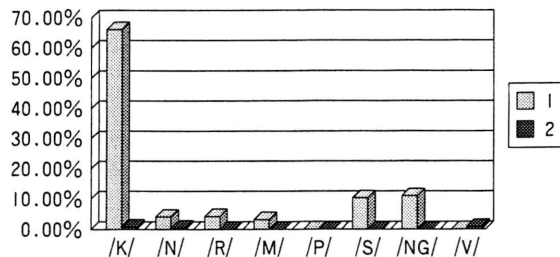
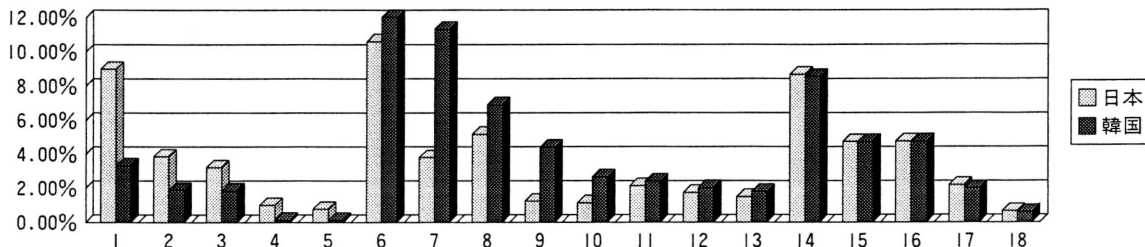


図5：韓国語の擬態語の語末「/K/」、「/N/」、「/R/」、「/M/」、「/P/」、「/S/」、「/NG/」、「/V/」

以上のように、日本の少女まんがの場合、基本語型に属さない擬態語でも派生する際、基本語型の形態的特徴に従うが、韓国の少女まんがの場合には、基本語型の語末特徴に従わず、自由に派生されていることが分かる。

3.3 意味的特徴



| | | | |
|---------------|-------------|--------------|---------------|
| 1 動悸—どきどき | 6 勢い—がばっ | 11 見る—きょろきょろ | 14 驚く—びく |
| 2 騒動—ざわざわ | 7 速度—さっ | 12 泣く—うる | 15 笑う—にこにこ |
| 3 火照る—かっ | 8 力の強弱—ぎゅっ | 13 歩く—てくてく | 16 怒り—むっ |
| 4 痛み—がながん | 9 精神的衝撃—がーん | | 17 言う・話す—ブツブツ |
| 5 密かに行動する—こそっ | 10 雰囲気—シーン | | 18 食べる・飲む—ぱく |

図6：日韓少女まんがにおける擬態語の意味分類による使用率

図6では、1-5は日本の少女まんがの使用率が高い場合、6-13は韓国の少女まんがの使用率が高い場合、14-18は日韓少女まんがにおける擬態語の使用率がほぼ同じ場合を表している。

図6に基づき、日韓少女まんがにおける擬態語の意味的類似点・相違点をまとめると以下ようになる。

類似点

日韓少女まんがにおいて、驚く様子を表す擬態語、笑う様子を表す擬態語、怒りを表す擬態語、言う・話す様子を表す擬態語、食べる・飲む様子を表す擬態語などの使用率

はほぼ同じである。

相違点

①日本の少女まんがの場合、動悸を表す擬態語(どきどき)、騒動を表す擬態語(ざわざわ)、頬が火照る様子を表す擬態語(かー)、心が痛む様子を表す擬態語(ぎゅう)、密かに行動する様子を表す擬態語(こそっ)などがよく使われている。また、よく使われている擬態語に促音や長音、撥音などを挿入するといった工夫をすること、ひらがな表記・カタカナ表記、更にひらがなとカタカナ表記を合わせることによって、より臨場感を生み出す働きかけをしている。かー、か〜、かあ、カア、かあー、カアー、

かあ…、かああ、カアア、かあああ、カアアアア、かあっ、かああっ、カアアッ、かあああっかる、カーツ、かーっツ…、かーっっー、っか〜…などがその例である。

それに対して韓国の少女まんがの場合は、歩く様子を表す擬態語(성큼성큼 (Seongkeumseongkeum))、見る様子を表す擬態語(두리번 (Dulibeon))、泣く様子を表す擬態語(그렁그렁 (Geuleonggeuleong))など、動きを表す擬態語がよく使われている。そのため、動きの勢い(덥썩 (Deopssek))、速度(속 (Seuk))、力の強弱(크ook (Kkook))など程度を表す擬態語の使用率が高い。

- ②日本の少女まんがにのみ見られる擬態語は、液体の状態(ぼたぼた、ダラダラ)、急ぐ様子を表すもの(ばたばた)、人が輝く様子を表すもの(きらきら)、ものが膨らんでいる様子を表すもの(ふわっ、ふわふわ)などである。韓国の少女まんがにのみ見られる擬態語は、身体全体、またその一部を用いて、感情や意志を表す擬態語、味を表す擬態語である。例えば、頭の動きで否定や反対を表す場合韓国の少女まんがには(절레절래 (Jeollaenjeollae))、(살랑살랑 (Sallangsallang))などの擬態語が使われているのに対し、日本の少女まんがには頭を横に振って否定を表す擬態語は見つけれない。また、筋肉ある意は身体の一部が、軽く瞬間的に動く様子を表す擬態語(움찔 (Ouljjil)) (꿈지락 (Kkomjilak))がよく使われている。

4. まとめ

日韓少女まんがにおいては、表1にある擬態語2の使用率は一番高い。つまり、日韓少女まんがにおいて、文法制約がなく、統語機能も果たさない独立した擬態語が一番よく使われている。

長さの特徴からみると、日本の少女まんがには6音節がよく使われているのに対し、韓国少女まんがにはあまり使われていない。それは、日本の少女まんがには、4音節の擬態語「どきどき」などが変化され、「どきどきどき」のように使われる場合が多いからである。

語型の特徴からみると、日本の少女まんがの場合、基本語型に属さない擬態語でも派生する際、基本語型の「ッ」「ン」「リ」「ー」の付加ルールに従い、語末に「ッ」、「ン」、「リ」、「ー」を付ける傾向があるのに対し、韓国の少女まんがの場合、基本語型の語末特徴に従わず、自由に派生させている傾向がある。

日本少女まんがの場合、動悸を表す擬態語、騒動を表す擬態語、頬が火照る様子を表す擬態語、心が痛む様子を表す擬態語、密かに行動する様子を表す擬態語などがよく使われている。また、よく使われている擬態語に促音や長音、

撥音などを挿入するといった工夫をすること、ひらがな表記・カタカナ表記、更にひらがなとカタカナ表記を合わせることによって、より臨場感を生み出す働きかけをしている。それに対して韓国の少女まんがの場合、歩く様子を表す擬態語、見る様子を表す擬態語、泣く様子を表す擬態語など動きを表す擬態語がよく使われている。そのため、動きの勢い、速度、力の強弱など程度を表す擬態語の使用率も高い。

5. 今後の課題

- ①本論文では、日韓の少女まんがにおける擬態語の数量的調査を主に行ったが、今後は具体例を取り上げ、分析する。
②擬音語、擬態語の音象徴的特徴や形態的特徴と意味の関係について検討する。

参考文献

日本語の参考文献

- 青山秀夫(1977)「朝鮮語の音声象徴」、『月刊言語』第6巻10号、大修館書店
越前屋明子(1989)「マンガの擬音語・擬態語—作家にみる—」『日本語学』第8巻9号、明治書院
大村浜(1955)「子供漫画に現れた擬声語」『言語生活』第50号、筑摩書房
岡本克人(1991)「日仏漫画の対照言語学的研究—オノマトペを中心に—」『高知大学学術研究報告(人文科学)』第40号、高知大学
日下みどり(2002)『漫画学入門』、中国書店
寿岳章子(1965)「まんがの文体」『言語生活』、第166巻171号、筑摩書房
竹内オサム(2005)『マンガの表現学入門』、筑摩書房
玉村文朗(1989)「日本語の音象徴語の特徴とその教育」『日本語教育』68号、日本語教育学会
陳佳雯(2004)「日本マンガにおけるオノマトペ(2)—単位から見た使用傾向—」『比較社会文化研究』第16号、九州大学
因京子・日下翠・松村瑞子(2002)『女性・少女漫画を素材とする異文化理解教育の方法開発』平成11年度～13年度科学研究費補助金研究成果報告書、九州大学
鶴岡昭夫(1989)「漫画の語彙」、『日本語学』第8巻9号、明治書院
夏目房之介(1997)『マンガはなぜ面白いのか—その表現と文法』HNKライブラリー
野間秀樹(1990)「朝鮮語のオノマトペ—擬声擬態語の境界

画定、音と形式、音と意味について—[音象徴、音節構造、音節末音法則]、『学習院大学言語共同研究所紀要』13 学習院大学言語共同研究所

日向茂男 (1986) 「マンガの擬音語・擬態語」(3)『日本語学』第5巻9号、明治学院

山口仲美 (2002) 『犬は「びよ」と鳴いていた 日本語は擬音語・擬態語が面白い』、光文社

四方田犬彦 (1999) 「オノマトペの問題(1)(2)」『漫画原論』、筑摩書房

ローレンス・スコウラップ (1993) 「日・英オノマトペの対照研究」、『月刊言語』6月号、大修館書店

韓国語の参考文献

채완 (Chaewan) (2000) 「국어 의성어 의태어 연구의 몇 문제 (国語擬声語擬態語研究における幾つの問題)」、『진단학보 (진단학)』89, 진단학회 (진단학회)

남풍현 (Nampunghyeon) (1993) 「중세국어의 의성의태법 (中世国語の擬声擬態法)」『새국어 생활 (新国語生活)』, 국립국어연구원 (国立国語研究院)、제3권2호 (第3巻2号)

신중진 (Sinjungjin) (1998) 「현대국어 의성어의태어연구 現代国語擬声語擬態語研究」, 국어연구 (国語研究) 154

윤희원 (Yunhuiwon) (1993) 「의성어·의태어의 개념과 정의 (擬声語・擬態語の概念と定義)」, 『새국어 생활 (新国語生活)』, 국립국어연구원 (国立国語研究院)、제3권2호 (第3巻2号)

李文圭 (1996) 「상징어의 형태 확장 (象徴語の形態拡張)」, 『한글 (ハングル)』, 한글학회 (ハングル学会) 第234号

許仁順 (1989) 「現代日本語의 象徴語에 관한考察—兒童漫畫를 중심으로—(現代日本語의 象徴語의 考察—子供マンガを中心に—)」 『일본학보 (日本学報)』 第23号

参考辞書

日本語の場合

阿刀田稔子・星野和子 (1993) 『擬音語・擬態語使い方辞典』、創拓社

浅野鶴子 (1978) 『擬音語・擬態語辞典』、角川書店

浅野鶴子・金田一春彦 (1985) 『擬音語・擬態語辞典』、角川書店

天沼寧 (1974) 『擬音語・擬態語辞典』、東京堂

五味太郎 (1989) 『英語人と日本語人のための日本語擬態語辞典』、ジャパントイムズ

尚学図書編 (1991) 『擬音語・擬態語の読本』、小学館

日本語教育学会編 (1990) 『日本語教育ハンドブック』、大修館書店

飛田良文・浅田秀子 (2002) 『現代擬音語擬態語用法辞典』、東京堂

山口仲美 (2003) 『暮らしのことば擬音・擬態語辞典』、講談社

韓国語の場合

남영신 (Namyongsin) (1988) 『朝鮮語分類辞典』, 한강문화사 (韓江文化社)

박용수 (Bakyongsu) (1989) 『朝鮮語分類辞典』, 한길사 (한길社)

조선어연구회편 (朝鮮語研究会編) (1971) 『朝鮮語擬声語・擬態語辞典』, 学友書房

연변어언어연구소편 (延辺言語研究所編) (1982) 『朝鮮語擬声語擬態語分類辞典』 延辺人民出版社

青山秀夫編 (1991) 『朝鮮語象徴語辞典』, 大学書林

注

- 1 五味太郎, “日本語擬態語辞典”, The Japan Times, 1991
- 2 鈴木孝夫, “日本語の語彙と表現”, 大修館書店, 1976
*脚注1、2は越智・川崎・矢野・林 (1997: 3211) による
- 3 手塚治虫が自叙伝『ぼくはマンガ家』(1969, 毎日新聞社)からストーリー漫画を意識的に「マンガ」と表記する。「マンガ」は手塚治虫が生み出した新しいメディアであり、「漫画」とは異なる。手塚以後の漫画を指してマンガと表記することになる。また少女マンガの場合は少女マンガの「文学性」に気付いた一部のマンガファン (評論家) は特別の思いを入れ込み、ひらかなで「少女まんが」と書くことになった。本研究で、以上のような観点に従って「マンガ」、「漫画」、「まんが」を分けて書くことにする (6: 7-10より)
- 4 鈴木 (1976) 擬音語・擬態語の感覚による分類
聴覚: 例「わんわん、にゃーにゃー」 視覚: 例「のろのろ、にこにこ」
触覚: 例「ぬるぬる、さらさら」 味覚: 例「ひりひり、さっぱり」
臭覚: 例「ぶんぶん、つん」 気分・心理状態: 例「ずきずき、いらいら」
- 5 本論文の韓国語ローマ字表記は韓国文化観光部告示第2000-8号 (2000年7月7日) のローマ字表記を使用。
- 6 絵1—春田なな, サボテンの秘密, 集英社, Vol.1, pp.7頁 (2004)
- 7 本稿では、『擬音語・擬態語の読本』(1991) の分類に従い、集めた擬態語を大きく四つに分類する。
- 8 山口 (2002) は日本語のオノマトペを語型の特徴から次々に新しい型を派生させていく大本になったタイプと、大本から派生したタイプだが、属する語が多く、もとの語型をしのぐほどに成長したタイプの二つに分けている。本論文では、大本になったタイプに属するのは基本語型に入るもの(1)、派生したタイプに属すものは基本語型に入らないもの(2)とする。

A Contrastive Study of the Onomatopoeia in Japanese and Korean Comics for Girls

Danian LI

Japanese sound-symbolic words are one of the most difficult types of words for Japanese learners to learn. Are sound-symbolic words found in dictionaries, literature, and girls' comics the same? The sound-symbolic words used in girls' comics have unique styles and functions, and they are different from those found in dictionaries or literature.

In this study, research is done to examine the morphological and semantic features of sound-symbolic words in girls' comics and to determine what should be taken into consideration when girls' comics are used for learning and teaching Japanese sound-symbolic words.